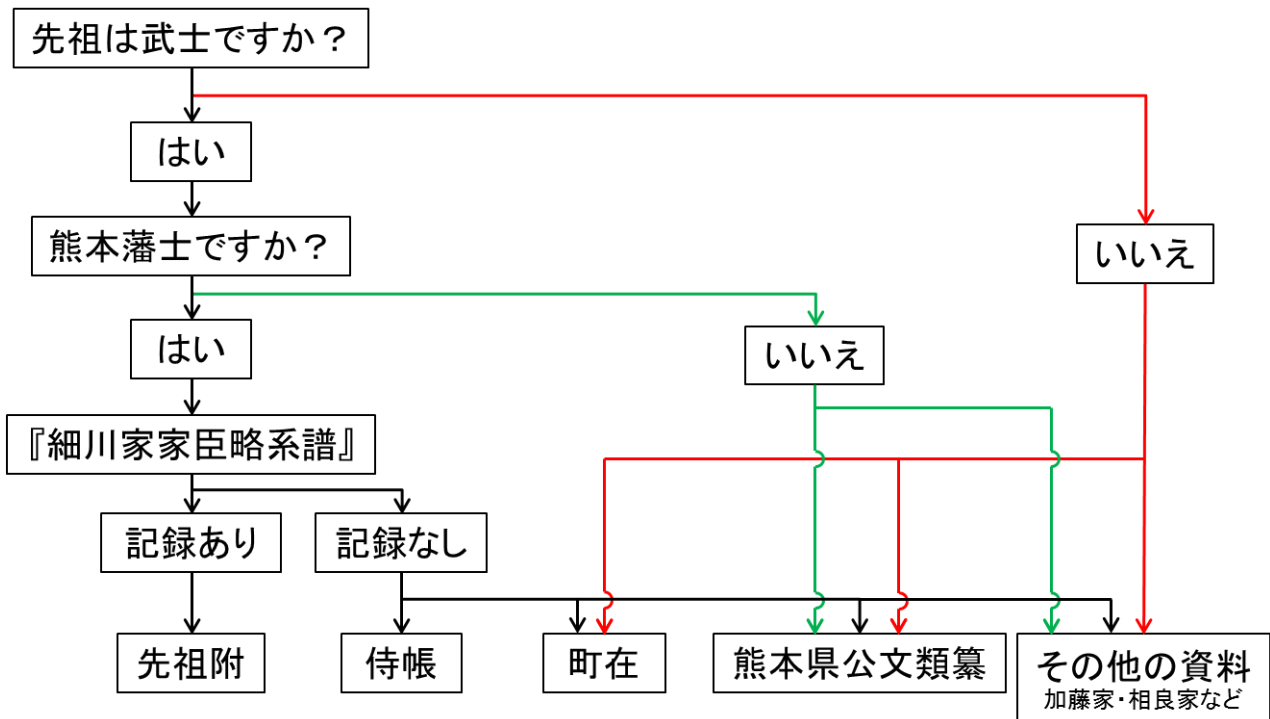


先祖・家系調査の手順

この資料では、先祖調査の大まかな手順と、調査の際に使用できる資料の一部を紹介します。手順についても資料についても、あくまで一例ですので、ここで示したものが正しい調べ方というわけではありません。

また、扱う史料が場合によっては江戸時代にさかのぼるため、くずし字で書かれた史料を多用します。そのほとんどは翻刻（活字化）されていません。県立図書館ではくずし字の解読等についてはサービスを行っておりません。基本のご自身でお調べいただくこととなりますので、ご注意ください。

大まかな手順



手順 1 : 図書館で調べる前に

①明治から現代までの系譜をしっかり把握しておきましょう。

基礎情報として、現在から明治前期まで遡って、家系を把握しておく必要があります。特に、幕末～明治前期にかけて戸主^{こしゅ}であった方の氏名は必須です。明治前期までは戸籍謄本でたどることができますので、市町村役場で取得してください。

②聞き取り調査について

ご親族や地域の歴史に詳しい方に話を聞いたり、墓碑を確認したり、可能な限り身分や職業などの情報を集めてください。また、必須事項ではありませんが、かつての居住地にある菩提寺^{ぼだいじ}に、過去帳を閲覧できるかどうか相談するのもよいでしょう。特に身分に関する情報は重要です。

③地域に残された資料はありませんか？

郷土史に関する資料は図書館以外にも、自治体が収集・所蔵していることがあります。調べたい事柄によっては県立図書館の資料より詳しいことが判るかもしれません。

手順 2 : 図書館の資料を使って調べる

前提：幕末～明治前期ごろの戸主の氏名が判明している。

※戸主=家の首長として、その構成員を統率する地位にあるもの。戸籍筆頭者。

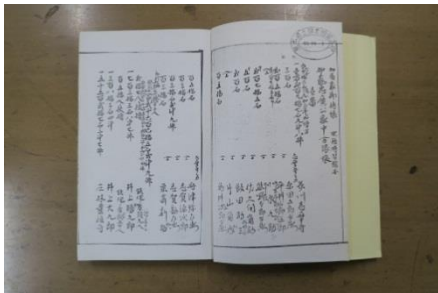
A 先祖が武士（士族）である場合

I 江戸時代の記録

江戸時代に肥後国に居住していたことが判っている場合、加藤家・細川家・相良家の家臣であった可能性があります。旧天草郡と五家庄は幕府領なので当館には記録を所蔵していません。

①加藤家

『加藤家侍帳』（複製）



「加藤家侍帳 時習館本写」

『加藤家御侍帳』^{さむらいちょう}（山田康弘/編）

『肥後加藤侯分限帳』^{ひごかとうこうぶんげんちょう}（山田康弘/編）

※ 加藤家の資料はさほど多くないので、上記の資料に記載がない場合、探し出すのは難しくなります。

しかし、記録がないから家臣ではなかった、とは限りません。

②細川家

細川家臣の所属は本家である熊本藩と分家の宇土支藩・高瀬支藩の3つに大別されます。

また、細川右京家や松井家など、重臣の家にも多数の家臣（陪臣）がいましたが、これらの人々は熊本藩直属の家臣ではないので、藩の資料にはほとんど記録されていません。

(1) 熊本藩（肥後細川家）

『細川家家臣略系譜』（川口恭子/著）

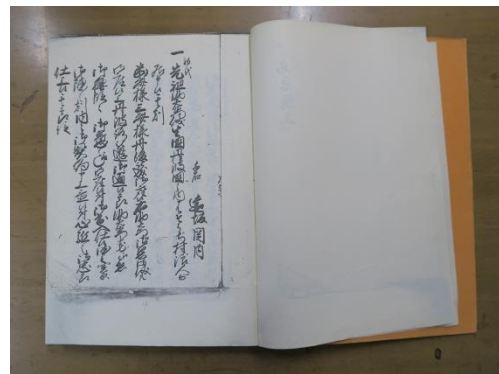
『先祖附』から各家の歴代当主を抜き出して列挙した略系譜で、『先祖附』の索引として使用される資料です。まず、この資料で目的とする人名を探し、見つかった場合は分類番号（南東〇〇）に対応する『先祖附』に歴代の記録が記載されています。

^{せんぞづけ}『先祖附』（複製）

原本は永青文庫蔵。各藩士の家ごとの歴史を記録した資料で、それぞれの家から熊本藩へ提出されたものです。まず『細川家家臣略系譜』で名前を探してから調べると、目的の記録を探しやすくなります。



(表紙)



(本文)

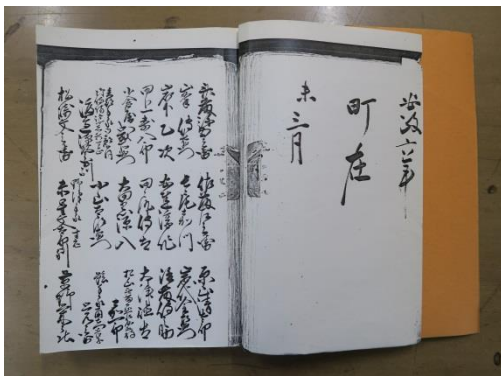
^{まちざい}
『町在』(複製)

原本は永青文庫蔵。武士や村役人などの褒賞記録です。あくまでも一個人に対する処置の記録であり、直接的に家系をたどることができる資料ではありません。

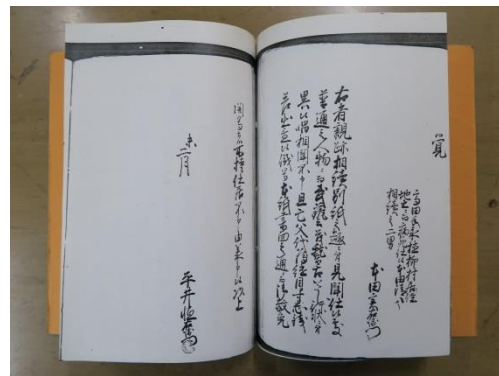
調べるときは、熊本大学附属図書館がインターネット上で提供しているデータベースか、もしくはデータベースを書籍化した目録を使って調べます。

十九世紀熊本藩住民評価・褒賞記録「町在」解析目録

<http://kijima.lib.kumamoto-u.ac.jp/>



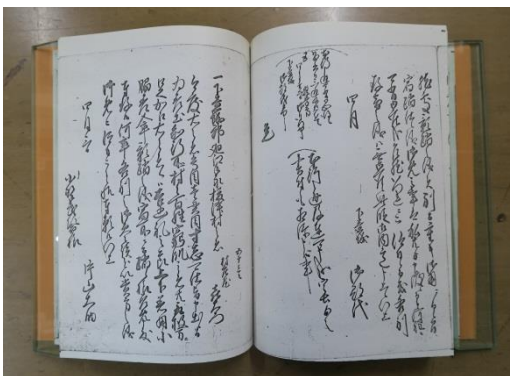
(目次)



(本文)

^{おぼえちよう}
『覚帳』(複製)

原本は永青文庫蔵。様々な文書や記録をひとまとめにした資料です。年代順に綴られています。目次や索引は整備されていないので、目的の記録があるかどうかは丹念に調べる必要があります。



(本文)

『熊本藩^{さむらいちょう}侍帳集成』(松本寿三郎/編)

江戸時代の侍帳を翻刻した書籍です。各時代の書式が異なる帳簿を1冊にまとめていますが、索引はありませんので、ある程度時代の目星をつけてから調べるとよいでしょう。

『熊本藩役職者一覧』(西山禎一/著)

知行取(藩から俸禄を受けている者)から任命される役職の役職者一覧。それぞれ氏名・任期・前職と後職・前任者がまとめられています。

(2) 宇土藩^{うと}(宇土細川家)

「宇土細川家侍帳」(『宇土市史研究』17号)

慶安5(1652)年と天明6(1786)年の2種類の侍帳を収録しています。

「宇土文書」目録(『うと学研究』32~34号、36号、38号)

宇土細川家に残された古文書の目録です。書状が大半を占めています。

(3) 高瀬藩^{たかせ}(高瀬細川家)

『平成宇土細川家系譜』(光永文熙/編)

享保期(1716~1736)の侍帳が収録されています。

『玉名市史』資料編5

熊本県公文類纂8-5「高瀬藩士代禄帳」の翻刻が収録されています。

(4) 細川右京家^{うきょう}

『細川右京家資料集』に熊本県公文類纂から引用された記録があります。

(5) 松井家

『肥後八代松井家御家人帳』(八代古文書の会/編)

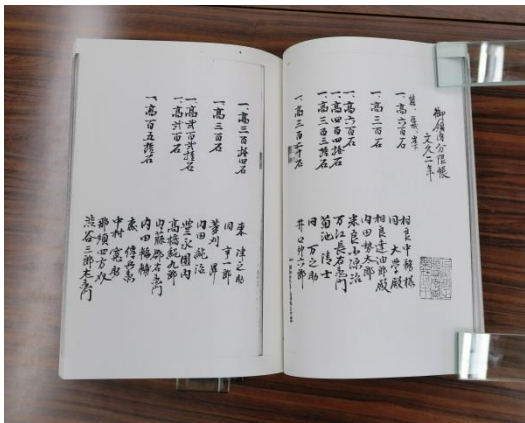
『八代市史 近世史料編4 松井家文書 御給人先祖附』

③相良家

『肥後国相良藩士分限帳』(佐藤光昭/編)

貞享3(1686)年、享保3(1718)年、天明4(1784)年、天保1(1830)年、安政年間(1854~1859)の5冊の集成です。

『相良藩御領内分限帳』(上妻文庫155) ※文久2(1862)年



(冒頭部分)

「安政年間分限帳」(『人吉市史』第1巻)

「慶応年 人吉藩分限帳」(『ひとよし歴史研究』13・14号)』

『南無 肥後人吉藩墓碑集成』(益田啓三/著)

※その他の資料については『相良家史料総目次』等を参照してください。

Ⅱ 明治時代以後の記録

明治時代以後の調査には「熊本県公文類纂」という資料を主に使用します。内容は明治初期～大正7（1918）年までの熊本県の公文書で、土地・戸籍・人事などに分類されています。

戦時中は郊外へ疎開されており、焼け残った分が昭和23（1948）年に県立図書館へ移管されました。

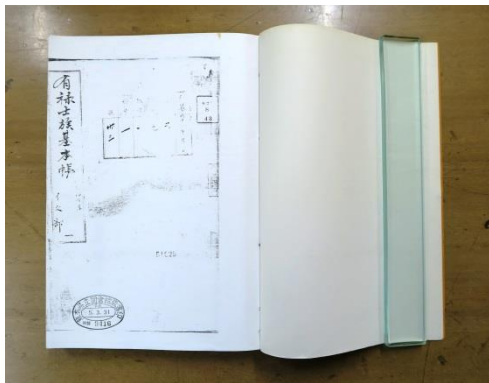
全部で57種目に分類されています。まず『明治以降県政資料等目録』で調べたい事柄や時代・地域によって調べる帳簿を特定します。帳簿によっては目次が付けられているものもありますが、全体的な目次・索引はありません。

『熊本県公文類纂』

特に利用頻度が多いものを紹介します。

①第8類（士族）

主なものとして、「有禄士族基本帳」^{ゆうろくしぞくきほんちょう}、「無禄士族基本帳」^{むろくしぞくきほんちょう}、「家禄奉還願」^{かろくほうかんねがい}があります。その他にも陪臣・浪人などの分類ごとに帳簿が作成されています。宇土・高瀬の支藩藩士についての記録も含まれています。



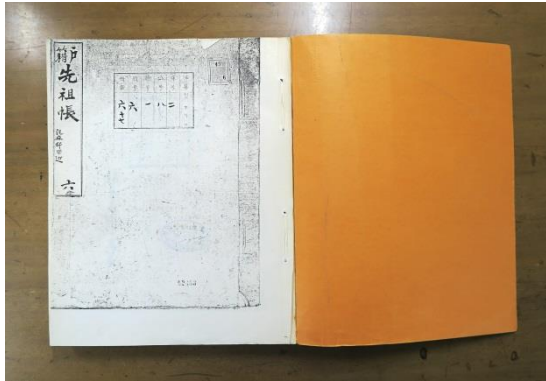
(表紙)



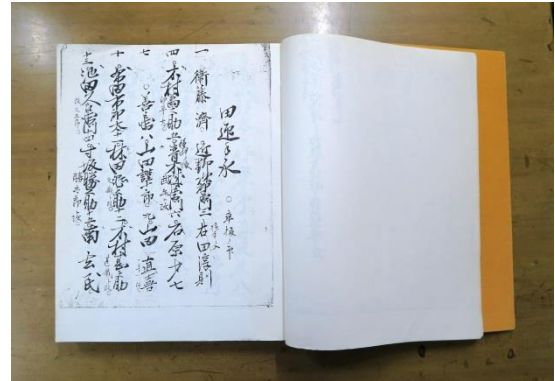
(目次)

②第 45 類 (戸籍先祖帳)

熊本区 (旧城下町) 以外の地方に居住する土族の先祖附です。葦北・球磨・天草の 3 郡の分はありません。



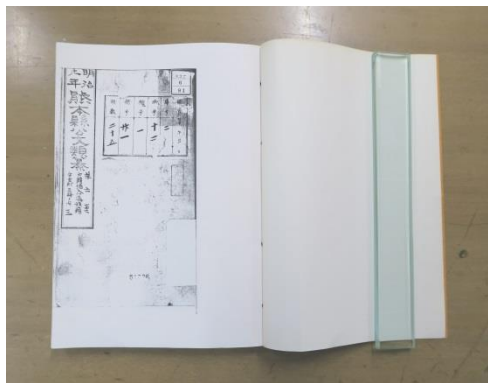
(表紙)



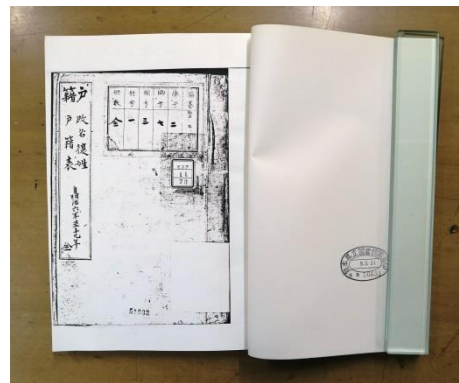
(目次)

③第 6 類・第 11 類 (戸籍関係)

主な資料として、「戸籍編入訂正 ^{ふぞくせき} 附族籍」、「土族隠居家督相続願」などが含まれています。土族が多いですが、土族以外の人物も多数含まれています。



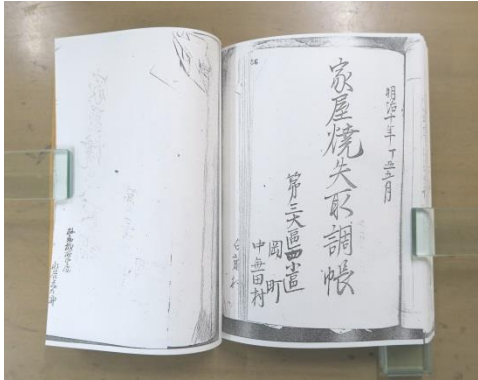
(表紙)



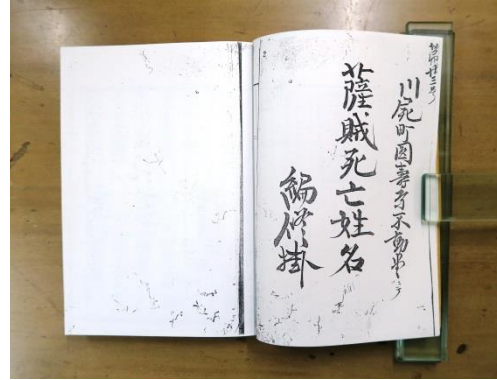
(表紙)

④第7類 (西南戦争)

西南戦争に関して作成された公文書が集められています。主な資料として、
「家屋焼失^{かおくしょうしつらべ}調帳^{ぞくと}」、
「賊徒死亡人名^{ぞくと}」、「官軍墳墓^{ふんぼ}調帳」などの名簿が多数を占めます。



(表紙)



(表紙)

B 武士以外の場合

I 江戸時代

武士のように整備された記録はありません。『町在』や『覚帳』、『検地帳』から探します。

II 明治時代以後

士族と同様、主に『熊本県公文類纂』から探します。他にも、人名録・名鑑・紳士録などの書籍も参考にしてください。

その他の資料

下記は、いずれも家系調べに直接役立つ資料ではありませんが、参考となる資料を紹介します。

『肥後藩国事史料』（細川家編纂所/編）

熊本藩の幕末期公文書を翻刻、日付順に配列した資料です。嘉永6（1853）年～明治5（1872）年初までを収録しています。藩の役人であれば名前が見つかる可能性があります。

『肥後読史総覧』（松本雅明/監修）

熊本県に関する歴史的事項・資料を編纂した書籍です。「加藤家侍帳」、「細川 家侍帳」、「八代分領侍帳」、「宇土支藩侍帳」、「高瀬支藩侍帳」、「相良家分限帳」が収録されています。

軍歴について

戦死者名簿は各市町村史に収録されていることがあります。復員者については県庁・厚生労働省が記録を管理しており、基本的に本人と遺族以外には開示されません。

自治体の行政文書

県立図書館では、ごくわずかですが「〇〇町政資料」「××村政資料」の名称でかつて存在した町村の行政文書を所蔵しています。庶務記録や議会関連の記録が大半です。県立図書館にないものは各自治体で保管されている可能性がありますので、それぞれの市町村へ直接お尋ねください。

熊本県職員だった方について

明治初～大正前期の時代については『熊本県公文類纂』に記録されている可能性があります。それ以外の記録についてお調べになりたい場合は、郷土カウンターへお尋ねください。ただし、資料によっては**個人情報保護の観点から閲覧をお断りさせていただきます場合があります**ので、ご承知おきください。